



### ◆◆◆◆ 子育てに必要な3つのR ◆◆◆◆

# R R R

「子育てに必要な3つのR」についてお話ししましょう。これは戦前のイギリスでよく使われた表現なのですが、今また注目されているというのです。即ち、良い子育てをしたければ、Rで始まる次の3つのことばを子育ての土台に据えなさいということです。

まず、最初のRは Respect（尊敬）です。つまり、人生をスタートしたばかりの何事にも未熟な子どもに対して、人生の大先輩である自分の親を「尊敬させ、従わせる」ことです。

2番目のRは Responsibility（責任をとること）です。自分のすることには必ず結果が伴いますが、幼い子どもにも、自分のしたことの責任をできるかぎり自分で取らせるようにするというのです。例えば、もらったお小遣いをその日のうちに使ってしまった子どもが、翌日に「ねえ、お母さん。買いたいものがあるから、お金ちょうだい」と言っても、その要求を叶えてやってはいけないということです。お小遣いを、たった1日で無計画に使ってしまった責任は、自分で取らせます。つまり、次のお小遣いの日まで我慢させることです。

さて、3つ目のRは Resourcefulness（臨機応変さ）ということですが、これはどんなことが起きても、その時々に対処する力を身に付けさせるということです。もし、日頃から親が何でも子どもに代わってやってあげていたら、この能力は身に付きません。だから、親がやり方を教えて、子どもにできることは何でもやらせるということです。失敗しても良いし、ぎこちなくても良いのです。やっているうちに上達するし、そこから未知のことに対処する能力が育って行くからです。

以上、3つのRは、まず親を尊敬させ、自分のことに責任を持たせ、親の指導のもとで何でもやらせ、自分で解決する能力を身に付けさせるということです。この3つのRが、イギリスの子育てで今また注目されているのです。

### ◆◆◆◆ 大人に対する言葉遣い ◆◆◆◆

授業参観に行ってきた若いお父さんから、子どもの言葉遣いについて質問を受けました。

「先生に対する子ども達のもの言いが、まるで友達に話している感じなんです。それでいいんでしょうか？ 授業中、先生が話している時にも、勝手にさえぎって言いたいことを言うんです。僕が子どもの頃は、先生が話している時にあんな風にため口をきくようなことはなかったと思うんですが・・・。」

私は少しうれしくなって、次のように答えました。

「私は、あなたより20歳以上も年上ですが、あなたの年代でもそう感じますか。ちょっと安心しました。私が小さい頃は、大人というのは恐い存在でした。だから話しかける時はかなり緊張しました。まあ、今の時代からすれば、逆の意味でそれはちょっと極端だったと思いますが・・・。でも、少なくとも子どもにとって大人は尊敬すべき存在だったから、まして学校の先生と話をする時は、対等な口のきき方など決してできなかったですね。自分よりもたくさん人生経験を積んで、多くの知識を貯えている大先輩である先生に対しては、それなりの敬意を表すことが当然だと感じていたんです。だから対等な言葉遣いなんてできませんでした。言葉というのは本当に不思議なもので、友達に対するような話し方をしていると、相手に対する敬意も次第に失われてしまいます。その結果、先生の言うことにしっかり耳を傾けることが難しくなってしまうんです。そうなったら、子ども達は、先生から謙虚に学ぼうとする姿勢を失ってしまうかもしれません。これは、子どもにとって不幸なことだと思います。」

だから親たちは、子どもと親しい関係を持ちながらも、親や他の大人たちに対する言葉遣いについて、きちんと指導すべきだと私は思うんです。」

